

# Piano

## Syllabus

2023 & 2024

ピアノ実技検定  
受検要項

# 2023 & 2024 ピアノ実技検定 受検要項

---

## 目次

### 1. はじめに

|                          |   |
|--------------------------|---|
| ABRSMについて .....          | 3 |
| 資格認定における詳細 .....         | 4 |
| 実技グレード検定について .....       | 4 |
| UCASポイント(英国) .....       | 6 |
| 資格認定規定(英国以外のヨーロッパ) ..... | 6 |
| 資格認定規定(それ以外の国) .....     | 6 |

### 2. 実技グレード検定

|                              |   |
|------------------------------|---|
| シラバス .....                   | 7 |
| 検定規定集 .....                  | 7 |
| 不正受検と不正運営 .....              | 7 |
| 受検資格 .....                   | 8 |
| 受検申込み .....                  | 8 |
| 受検へのアクセス(特別な配慮の必要な受検者) ..... | 8 |
| 検定の配点 .....                  | 8 |
| 検定の実際 .....                  | 9 |
| 特別な配慮 .....                  | 9 |

### 3. ピアノ実技検定 2023&2024

|                    |    |
|--------------------|----|
| はじめに .....         | 10 |
| 実技検定：課題内容 .....    | 10 |
| ・ 楽器 .....         | 10 |
| ・ 課題曲 .....        | 11 |
| ・ スケールとアルペジオ ..... | 13 |
| ・ 初見演奏 .....       | 15 |

|                    |    |
|--------------------|----|
| ・ オーラル テスト         | 16 |
| 初見演奏の出題範囲          | 17 |
| <b>各グレード別 検定詳細</b> | 18 |
| オーラル テスト詳細         | 18 |

#### 4. 評価と採点及び違反行為

|        |    |
|--------|----|
| 評価の目標  | 25 |
| 評点の配分  | 25 |
| 成績の分類  | 25 |
| 全体評価   | 25 |
| 評価について | 26 |
| 違反行為   | 26 |
| 採点基準   | 26 |

#### 5. 検定の後に

|              |    |
|--------------|----|
| 結果           | 29 |
| アピールとフィードバック | 29 |

#### 6. その他の検定

|                       |    |
|-----------------------|----|
| ピアノ プレップ テスト          | 30 |
| パフォーマンス グレード          | 32 |
| 音楽理論                  | 33 |
| プラクティカル ミュージシャンシップ    | 34 |
| ARSM                  | 35 |
| DipABRSM, LRSM, FRSM  | 36 |
| <b>曲目プログラム用紙(提出用)</b> | 37 |

# 1. はじめに

## ABRSMについて

ABRSMは音楽への情熱を基に指導者や学習者を長い間サポートしてまいりました。その中の一つがグレード検定です。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声楽、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキルー聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に、学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることが出来ます。

検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることが出来ます。さらに検定で音楽の目標に到達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSMは学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮するよう努めます。また、検定員は明快で分かりやすい基準に基づいて、信頼できる客観的なおかつ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

私たちは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みになり、役に立つものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

### 私たちの使命

ABRSMの使命は学習者が音楽を学んでいく過程で達成感を得られるよう導いていくことにあります。私どもはこれを英国王立音楽大学4校（王立音楽院、王立音楽大学、王立北部音楽大学、王立スコットランド音楽大学）と提携して行なっています。ABRSMは音楽の持つ芸術的価値、また音楽教育の重要性に強い情熱を傾けており、音楽と関わっていくことによって、人々は類のない素晴らしい経験をし、生涯に渡ってその恩恵を受けとることが出来ると信じております。

ABRSMは世界の音楽教育を先導しており、その評価体系、出版物、そして指導を通して、音楽を教え、学び、創り、そして楽しむ際に必要な知識や手段を世界の人々に提供しています。

ABRSMの奨学金、寄付、後援そしてパートナーシップは、あらゆる年齢の人々が音楽と出会い、その潜在能力を十分に発揮する機会を作り出しております。また私どもの全て活動は、学習者と指導者の「音楽の旅」をサポートする目的のために行われております。

### **ABRSMとは？**

ABRSM（Associated Board of the Royal Schools of Music）はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

[www.abrsm.org](http://www.abrsm.org)

## **資格認定に関する詳細**

この資格認定に関する詳細にはシラバスに書かれている必須条件だけでなく、指導者、受検者、保護者そして団体が実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の詳細、評価の対象となる項目、学習の成果、採点基準などが掲載されています。

検定の運営に関する情報などはABRSMの受検要項に書かれていますので、受検を申し込む前に必ず目を通して下さい。

### **要項の有効期限**

この要項は2023年1月1日から2024年12月31日まで有効です。特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがあります、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

この要項の最新版は [www.abrsm.org/exam](http://www.abrsm.org/exam) にて閲覧可能です。

## **実技グレード検定について**

### **資格認定の目的**

実技検定試験は学習者が音楽を演奏する際に必要な技能を段階的に身につけられるように作られています。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。受検者は受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取りますが、これはこの先、引き続き学んでいく過程において貴重な指針となるものです。

### **受検資格**

実技検定受検においては年齢の制限はありませんが、グレード6から8を受検するには受検資格条件を満たす必要があり、詳細は英文10ページに記載しています。この実技検定では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、要望に沿った受検会場の手配や調整を行っています。

## 学習の道すじ

ABRSMの実技グレード検定はイニシャル グレードからグレード8まであります。夫々のグレード検定は、実技演奏の際に求められる知識や解釈を正しく評価できるように作られています。楽器をどのくらい上手に弾きこなしているか、曲目をどの程度きちんと理解出来ているか、という観点からばかりでなく、その演奏の土台となっている知識や解釈、技能を測るテストなども合わせて行い、オールラウンドに判定していきます。各グレードを受検する際に習得した技能、技量があれば、次のより高いグレードや他の芸術部門へと進んでいくことが可能となるのです。

実技検定試験はイニシャルグレードからグレード8まで段階的にレベルが上がっていくように作られていますが、下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありません。

より高いグレードでは、音楽の要素を完全に理解していることが十分に納得のいく演奏をする上で大変重要になってきます。音楽理論のグレード検定においては、音楽記号についてその意味を答え、かつ正しく使えるかどうか、あるいは抜粋された曲の一部分に関する質問や音楽の要素についての質問に答えられるかどうか等を判定、評価していきます。

知識や解釈をより深めるだけでなく、学んでいる曲の音楽的語法を習得し表情豊かな演奏が出来ていくかどうかを評価する Practical Musicianship exam という検定もあります。グレード6、7、8を受験するには、音楽理論、Practical Musicianship、あるいはジャズ楽器のソロ演奏でグレード5あるいはそれ以上のグレードを事前に習得していなければなりません。（訳注：現在ジャズ検定は日本では行われておりません。）

グレード8を終了すると、より上のレベルの資格、すなわち、ARSM、DipABRSMに進むことが出来ます。実技演奏のみのARSM検定はリサイタル形式で、プログラム作りと選曲の幅を広げることに重きを置きながら、より高い演奏技術、より深い曲目の解釈を目指し、グレード8を終了後DipABRSMの準備が出来るようになるまでの間の橋渡しの役割を果たしています。

DipABRSM、LRSM、FRSMでは実技演奏に加えて、音楽的知識や理解、作曲家について、あるいは音楽様式や時代背景などを予めどのくらい調べてあるかを問う口頭試験が行われます。詳細はセクション6に記載されており、又 [www.abrsm.org/diploma](http://www.abrsm.org/diploma) も合わせてご覧下さい。

## 受検資格の事前取得

高レベルでの満足度の高いパフォーマンスの為には、その音楽の要素を十分に理解していることが肝要です。私たちの理論検定は受検者が音楽用語を判別、活用し、又音楽の抜粋を理解し設問に答えることができる様に作られております。又、プラクティカル ミュージシャンシップ（訳注：実技ソルフェージュ）においては、受検者が学習しているレパートリーの音楽的素養を理解すると同時に表現や解釈についてのスキルを獲得することを目指します。従って、グレード6以上の実技検定受検（パフォーマンスGも含む）には理論検定、あるいはプラクティカル ミュージシャンシップG5以上の事前取得が必要となっております。

## 英国におけるUCASポイントの規定

英文6～7ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳注：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加算される。）詳細は、以下を参照願います。

[www.abrsm.org/regulation](http://www.abrsm.org/regulation)

[www.ucas.com](http://www.ucas.com)

<https://register.ofqual.gov.uk>

## 英国以外のヨーロッパにおけるUCASポイントの規定

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

## その他の国のUCASポイントの規定

各国のポイントについては以下を参照願います。

[www.abrsm.org/regulation](http://www.abrsm.org/regulation)

## 2. 実技検定

### シラバス

#### 有効期間

この要項（シラバス）は2023年1月1日から2024年12月31日まで有効です。

#### シラバスの変更

すべての変更－マイナーな変更点を含む変更告知－は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

[www.abrsm.org/syllabuscorrections](http://www.abrsm.org/syllabuscorrections)

#### 移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。[www.abrsm.org/overlap](http://www.abrsm.org/overlap)

2023年12月31日まで、全世界にわたり、ピアノ受検者は2021&2022年シラバスからの課題曲、スケール課題を演奏することが可能です。但し新旧2つのシラバスを同時に使用することはできません。

#### 次回のシラバス

次回シラバスの発行は2024年に告知され、2025年から有効となります。変更点などについては以下のサイトを随時参照のこと。[www.abrsm.org/piano](http://www.abrsm.org/piano)

### 検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。[www.abrsm.org/examregulations](http://www.abrsm.org/examregulations)

### 不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

●**不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。



●**不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。

## 受検資格

ピアノのグレード実技検定は9段階に分かれています。受検における年齢制限はなく、イニシャルグレードからグレード5まではどのグレードからでも受検できます。グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

●ABRSM音楽理論 グレード5以上

●同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上

●同ソロのジャズ楽器 グレード5（訳註：日本では行われておりません）

代替条件を含む詳細については [www.abrem.org/prerequisite](http://www.abrem.org/prerequisite) を参照のこと。

## 受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

[www.abrsm.org/exambooking](http://www.abrsm.org/exambooking)

## 受検へのアクセス(特別な配慮を必要とされる方)

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は [www.abrsm.org/specifcneeds](http://www.abrsm.org/specifcneeds) このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

詳しくは [accesscoordinator@abrsm.ac.uk](mailto:accesscoordinator@abrsm.ac.uk) 又は [www.abrsm.org/specifcneeds](http://www.abrsm.org/specifcneeds) にご相談ください。

## 検定の配点

ピアノ実技検定は課題曲演奏、スケール、アルペジオ、初見演奏、オーラル テストの6つの要素で構成されています。各々の配点については英文52ページを参照のこと。

## 検定の実際

### 検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。

検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されます。

検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

### 検定科目の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲や、デュエットの場合は最初に続けて受検するのが望ましいです。

### 楽器

ABRSM認定会場においては、アップライト/グランドピアノが用意されています。ピアノ以外の受検者は必要な道具（例：足台 フットピン）の携帯を忘れないこと。詳しくは次ページに記載されています。

### 検定所要時間

下記に記された時間はピアノ受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員がマークフォームに記入し終えるまでの大体の時間を示します。

| グレード  | イニシャル<br>グレード | グレード<br>1 | グレード<br>2 & 3 | グレード<br>4 & 5 | グレード<br>6 | グレード<br>7 | グレード<br>8 |
|-------|---------------|-----------|---------------|---------------|-----------|-----------|-----------|
| 時間(分) | 12            | 12        | 12            | 15            | 20        | 25        | 30        |

## 特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。[www.abrsm.org/policies](http://www.abrsm.org/policies)

## 3. ピアノ実技検定 2023 & 2024

### はじめに

2023&2024年度のシラバスには、いくつかの重要な変更点があります。

- レパートリーリストは、全てではなく部分的に改訂され、2021/2022からの曲も含まれています。
- これらの曲は、使用しやすくするために同じリスト群のNo.4からNo.10に配置されています。
- 各リストには13曲が掲載され（各グレード全9曲）、以前よりも多様な作曲家が網羅され、広い範囲でのレパートリーの選択が可能となりました。

スケール、アルペジオ及びオーラルテストの内容に変更はありません。

以下の情報は更なる明確化のために、更新されています。

- 特別の配慮について [セクション2]
- 複数受検の際の、レパートリー重複について、現在は可能となっている。[セクション3]
- 要項を逸脱した場合の対応について [セクション4]

### 実技検定課題内容

このシラバスは2023年1月1日から2024年12月31日まで有効です。

詳細については、申し込みの前に必ず検定規定集を熟読のこと。[www.abrsm.org/examregulations](http://www.abrsm.org/examregulations)

### 楽器

検定ではグランド・ピアノ、又はアップライト・ピアノが使用されます。事前にそのピアノを弾くことはできませんが、受検者がそのピアノに不慣れであることは承知の上で、評価されます。検定が学校や、指導者宅などにおいて行われる場合は、相応なピアノが準備されるべきです。電子ピアノが設置されている場合は、それで受検することも出来ます。但し、ピアノ音色であること、88鍵ありピアノ同様の鍵盤タッチであること、アクション、幅、ダンパー・ペダル等がピアノと同様の機能をもつことを条件とします。

**検定の前に：**演奏を始める前に、少しスケールや課題曲のさわりを弾いてもよいことになっています。それによって、椅子や足台（必ずしも会場に常備されているとは限りませんのでご注意ください）の高さなどを調整してください。

## 課題曲

音楽家はレパートリーを広げ、演奏することによって、その楽器をマスターしていきます。課題曲が検定の中心であるのは、その理由からです。受検者は課題曲3曲を選び、演奏します。シラバスに選択されている課題曲は、ルネッサンス時代から現代まで、異なる伝統、様式が幅広く網羅され、3つのリストに収められています。

各リストから一曲を選ぶことにより、受検者はバランスの取れた選択をし、自身のスキルの幅を披露することができるのです。

- リストAでは、比較的速めの動きのある曲が選ばれ、技術的な機敏性が必要とされます。
- リストBでは、より叙情的で、表情豊かな演奏が求められます。
- リストCでは、伝統、様式、音楽的特徴の面で幅の広い選択がなされています。

イニシャルグレードからG3までには、デュエット曲もあります。初心者にとっては、日頃レッスンで行われているもので、音楽の認識力、リズム、拍感などが強化されるでしょう。

このように幅の広いレパートリーを選択することによって、受検者が、心惹かれる音楽と出会い、それを学び演奏することを楽しんでほしいと願っております。

### 課題曲の組み合わせ：

受検者は課題曲A,B,C各リストから1曲ずつ選曲します。受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません、この要項の巻末にある曲目リストに記入して提出する事もできます。

レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれておりますが、中には、技術的な理由（手の大きさなど）、楽器の問題（電子ピアノ）、又その内容（歴史的、文化的主題、歌曲の編曲の場合はオリジナルの歌詞の問題など）が必ずしも、適切でない場合もあるかもしれません。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは [www.nspcc.org.uk/online/safety](http://www.nspcc.org.uk/online/safety)

レパートリーリストはパフォーマンス グレードと共通で、両方のグレードを受検する方にとってより受検しやすくなっております。

**デュエット：**イニシャルグレードからG3では、リストからデュエット曲を1曲選ぶことができます。リストにはデュエットという表示があり、受検者が弾くパートが指定されています—*primo part* は、上のパート、*secondo part*は、下のパートです。

デュエットの合奏者は受検者があらかじめ手配し、演奏中のみ検定室への入室が許されます。合奏者は指導者でも可。（検定員は演奏しません）又、録音された演奏との合奏は不可です。

**楽譜と出版社：**編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。ダウンロード版も可能です。詳細は14ページを参照のこと。

**楽譜の解釈：**記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけでなく、タッチ、音色の使い分け、拍感、フレージングなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

**ペダルについて：**ペダルの使用、コントロールの仕方、及び、その音色や音楽の形付けへの効果は評価の対象になります。ただ、記載されているペダリングを厳密に再現するよりも、その音楽的效果の方が重要です。ペダルが音楽の最も重要な要素になっている様な曲などは避けた方が良いでしょう。なおデュエットでは、通常下のパートがペダルを担当します。

**手の大きさについて：**受検者はご自身の手の大きさを考慮して曲を選択しましょう。必要に応じて和音を分散して弾いたり、ある音を省略しても音楽的に問題がなければ減点されることはありません。

**繰り返し(リピート)：***da capo*と*dal segno*は、必ず守ってください。ただし、特に指示がない限り2、3小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。

**Ossias：**オッシア(別の演奏法)が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

**暗譜：**暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

**譜めくり：**検定中、譜めくりに困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません(次の「コピー」の項をお読みください。) G6以上で、譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者(指導者など)を同伴することも可能です。検定員はいかなる場合も譜めくりはいたしません。

**コピー：**英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。(詳しくは [www.mpaonline.org.uk](http://www.mpaonline.org.uk) をご覧ください。) その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

**楽譜を求めるにあたって：**検定用の楽譜は、楽器店やオンライン(ABRSMも含む；[www.abrsm.org/shop](http://www.abrsm.org/shop))で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られています。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。[www.abrsm.org/publishers](http://www.abrsm.org/publishers)

## スケールとアルペジオ

スケールの練習は、ピアノ演奏の技術 – 正しい姿勢、手のポジション、各パートの連携動作、両手の動きのバランス、流暢な鍵盤演奏力の発達など – を獲得する基本です。これらを練習することで、学習者は音の高さや、音程を意識し、調やパターンを理解し、音色の質の安定感を増すことができます。初見演奏や、新しい曲の読譜の助けにもなり、又実際の演奏（ソロ/アンサンブル共に）での自信へとつながることでしょう。

**暗譜：**全グレードにおいて、暗譜で弾くこと。

**指定範囲：**受検者は、指定された範囲をカバーしていれば、鍵盤のどの音からスタートしても良いことになっています。両手の場合は1オクターヴ間隔とし、全て指定された範囲（とパターン）において上行、下行をしなければなりません。

**リズム：**全ての演奏は均一の音の長さで弾かれなければなりません。

**パターン：**アルペジオと属七の和音は他の指定のない限り基本形。全ての属7の和音は、その調の主音で終わること。3度重音奏および3度スケール奏では、下のパートがその調の主音となります。6度の場合は上のパートがそれに当てはまります。

**アーティキュレーション：**要項にスタッカート（或いはレガート、スタッカートの両方）の指示がある場合を除き、全てレガートでの演奏となります。

**ペダル：**全ての演奏はペダルなしで弾かれなければなりません。

**指使い：**音楽的に有効であれば、どのような指使いであっても、受け入れられます。

**検定の実際：**イニシャルグレードでは、リストの順番で5つの課題全てを弾かなくてはなりません。検定員が右手、左手の指示をします。

グレード1－8においては、各課題から最低1問出題され、通常、長調から短調へと進みます。又、検定員は、下記のポイントを指定します。

- ・ 調（短調を含む－グレード6－8の場合は旋律/和声の区別も）及び、弾き始めの音
- ・ 右手、左手、あるいは両手の区別
- ・ アーティキュレーション（グレード6－8）

**参考文献について：**練習用に問題集がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

**速度：**英文15ページのリスト（以下に抄訳あり）を参考にしてください。

**（項目）**

**スケール**（反進行、半音階、全音階を含む）

**アルペジオ**（分散和音、属七、減七を含む）

**3度の並進行／6度の並進行**（半音階を含む）

**3度のレガート重音奏**

**3度／6度間隔のスタッカート奏**

## 初見演奏

初見演奏の力をつけることには、多くのメリットがあります。調やリズムパターンを素早く把握し、新曲の演奏に自信をもって臨め、更に読譜力も高まるのです。アンサンブルでの演奏も、より豊かで楽しいものになることでしょう。

**初見演奏の内容：**受検者は、短い新曲を演奏します。受検者は、約30秒の予見時間が与えられ、その間試奏をしてもよいことになっています。

**出題範囲：**英文18ページの表では各グレードにおける要素の出題範囲が記載されています。

**指使い：**音楽的に有効であれば、どのような指使いであっても、受け入れられます。

**参考文献について：**練習用に初見演奏問題集がABRSMから出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

**視覚障がいを受検者：**視覚障がいを受検者（全盲あるいは弱視）は、通常のテスト以外に拡大楽譜や、聴覚テストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。

詳細は、[www.abrsm.org/specificneeds](http://www.abrsm.org/specificneeds)



## オーラル テスト

「聴くこと」は、音楽を創る基礎です。音楽がどのように成り立っているかを聞き取ることは、音楽力を伸ばすための決定的な要素となります。オーラル テストのスキルは音の長さ、演奏のバランス、拍感、リズム感などを把握するのに役立ち、更に音程感をつけ、暗譜、ミスを発見する際にも役に立ちます。

テストの内容：詳細は英文40－47ページをお読みください。

**参考文献について：**練習用に初見演奏問題集 (*Specimen Aural Tests / Aural Training Practice*) が ABRSMから出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

**聴覚障がいのある受検者：**聴覚障がいのある受検者は通常のテスト以外のテストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、[www.abrsm.org/specificneeds](http://www.abrsm.org/specificneeds) を参照のこと。

## 初見演奏の出題範囲

以下の表は、各グレード別の出題範囲を示しています。提示された要素の範囲は、それ以降の上位のグレードにも適用されます。（訳註：例えばグレード2の実際の範囲は、グレード1+2の範囲となります。）英文17ページもご覧ください。

| グレード  | 長さ(小節数) | 拍子                      | 調                    | 手の位置                              | 音楽の要素                                                                                                                                                                                                |
|-------|---------|-------------------------|----------------------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イニシャル | 4       | 4 / 4                   | ハ長調<br>ニ短調           | 片手<br>・片手ずつ<br>・5指の範囲<br>(主音から属音) | ・英文表記参照<br>・全休符<br>レガート、スタッカートのフレーズ<br><i>f</i> と <i>p</i>                                                                                                                                           |
|       | 6       | 2 / 4                   |                      |                                   |                                                                                                                                                                                                      |
| 1     |         | 3 / 4                   | ト、ヘ長調<br>イ短調         | 5指の範囲                             | 臨時記号あり(短調の場合のみ)<br>・英文表記参照<br>・二分休符、4分休符<br>・スラー、アクセント<br>・ <i>mf</i> と <i>mp</i><br><i>cresc.</i> 、 <i>dim.</i> 、  |
| 2     |         |                         | ニ長調<br>ホ、ト短調         | 両手奏                               | ・符点音符など英文表記参照<br>・タイで結ばれた音符<br>・ <i>pp</i>                                                                                                                                                           |
| 3     | 8小節まで   | 3 / 8                   | イ、変口、変ホ<br>長調<br>口短調 | 5指の範囲外                            | ・片手での2重音<br>・英文表記参照                                                                                                                                                                                  |
| 4     | およそ8小節  | 6 / 8                   |                      |                                   | ・弱起の曲<br>・半音階の音<br>・フェルマータ<br>・テヌート                                                                                                                                                                  |
| 5     | 8－12小節  |                         | ホ、変イ長調<br>嬰ヘ、ハ短調     |                                   | ・和音奏(片手に最大2音まで)<br>・単純なシンコペーション<br>・終りのテンポ変化(遅くなる)<br>・ <i>ff</i>                                                                                                                                    |
| 6     | 12－16小節 | 9 / 8<br>5 / 8<br>5 / 4 | 嬰ハ、ヘ短調               |                                   | ・三連音符のリズム<br>・音部記号の変化<br>・ペダルの使用                                                                                                                                                                     |
| 7     | 16－20小節 | 7 / 8<br>7 / 4          |                      |                                   | ・テンポの変化<br>・オクターブ記号<br>・弱音ペダルの使用                                                                                                                                                                     |
| 8     | 約1ページ   | 12 / 8                  | 口、変ニ長調               |                                   | ・片手での3重音<br>・分散和音<br>・単純な装飾音<br>・テンポの加速                                                                                                                                                              |

## 各グレードの課題曲及びスケール課題については 英文記載(19～39ページ)参照のこと

### オーラル テスト 実技検定全科目共通です。

「聴くこと」は良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができるのです。レッスンの中でこのようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつきます。

### 検定では

オーラル テストは、実技検定の一部です。

オーラル テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

英文41～47ページには、各グレードの課題が詳しく述べられています。

### 評価

いくつかのテストでは必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは評価に影響を与える場合もあります。

ここでは個々の設問で採点されたり、ミスの数で減点されるものではなく、質問に対する受検者の反応を総括的に評価します。評価の基準については55ページのリストを参照のこと。

### 聴音例題集

オーラル テストの実例は、「聴音例題集」(*Specimen Aural Tests*)及び、「聴音指導書」(*Aural Training in Practice*)を参考にしてください。これらは、本部のホームページや日本代表事務局で購入できます。

### 聴覚に障がいのある受検者

聴覚障がいを持つ受検者は、通常のオーラル テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。詳細は、[www.abrsm.org/specificneeds](http://www.abrsm.org/specificneeds) を参照のこと。

## オーラル・テスト：イニシャル グレード

- A パッセージに合わせて、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて間を置かず拍をうってください。
- B 2小節の3/4或いは4/4拍子のフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いてそのリズムを打つこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しいリズムを打つこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する1つの質問に答えてください。出題範囲は、  
①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション（スタッカート／レガート）についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

## オーラル・テスト：グレード1

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、  
①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション（スタッカート／レガート）についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

## オーラル・テスト：グレード2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は  
①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート/レガート）、  
②テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

## オーラル・テスト：グレード3

- A 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、  
①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート/レガート）、テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）  
②調性（長調/短調）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

## オーラル・テスト：グレード4

- A 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う(あるいは弾く)こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。出題は、ハ(C)、ヘ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C 1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、  
①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。  
曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C 2 C 1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

## オーラル・テスト：グレード5

- A 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う(あるいは弾く)こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題はシャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C 1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、  
①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C 2 C 1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

## オーラル・テスト：グレード6

- A 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- B スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの長調又は短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- C フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。

- D 1 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は  
①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。

- D 2 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

## オーラル・テスト：グレード7

- A 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。

フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- B スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- C 1 フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。

- C 2 上記C 1の終止形における**2つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下属和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアント(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよい。

- C 3 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下属調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D 1 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D 2 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、**そのリズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4** 或いは**6/8**のいずれの拍子であるかを答えてください。

## オーラル・テスト：グレード8

- A 1 **三声のフレーズが2回弾かれますので、最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。  
フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A 2 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)**に限られます。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音－I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下属和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます。
- A 3 上記の終止形における**3つの和音と転回形を答えてください**。出題は、トニック(主和音－I)の基本形、第1,2転回形、スーパー tonic(上主和音－II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下属和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよい。
- B スコアを見て、**上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと**。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。



- C 2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を教えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下属調、平行調への転調に限られます。転調先の調を答えてもよい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて検定員がヒントを与えることもあります。

## 4. 評価と採点

### 評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは、検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文54－55ページをご覧ください。

(訳註：英文48－51ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略)

### 評価の配点

ピアノ検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

| 検定の区分      | 各セクションの満点 | 合計点に対する配分 |
|------------|-----------|-----------|
| 課題曲 1      | 30        | 20%       |
| 課題曲 2      | 30        | 20%       |
| 課題曲 3      | 30        | 20%       |
| スケールとアルペジオ | 21        | 14%       |
| 初見演奏       | 21        | 14%       |
| オーラル テスト   | 18        | 12%       |
| 合計         | 150       | 100%      |

### 評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも100点（66%）を獲得しなければならないということではありません。

| 評点の区分           | 評点の範囲   |
|-----------------|---------|
| Distinction（秀）  | 130－150 |
| Merit（優）        | 120－129 |
| Pass（合格）        | 100－119 |
| Below Pass（不合格） | 50－99   |

### 包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力－理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

## 評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンスグレード⇔実技検定の評点の変更は行われることはありません。

## 違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適当である（例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない 等）
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合。

これらに対するものとしては

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為をABRSMに報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。

罰則なしの違反行為に関してのアピールは受け付けられません。

## 評価の基準 (Marking Criteria)

54-55ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。

## 採点規準(すべての楽器)

| イニシャルGrade-8 課題曲           |                               |                                     |                        |                                 |                                       |
|----------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
|                            | 音符/音程                         | 拍子/テンポ/リズム                          | 音色                     | 音楽的な形付け                         | 演奏全体                                  |
| Distinction<br>優<br>27-30点 | ・極めて正確な音符/<br>音程              | ・流暢<br>・ルバートの適切な使用<br>・リズムの特徴を把握    | ・明快さ<br>・音色の使い分け       | ・細部にわたる音楽的<br>かつ様式に合った豊<br>かな表現 | ・自信に満ちた演奏<br>・時代様式を生き生き<br>と伝えている     |
|                            | ・ほぼ正確な音符/<br>音程               | ・持続性のある適切な<br>テンポ<br>・よいリズム感        | ・音色のコントロール<br>・音色への配慮  | ・細部に留意し、明快<br>な音楽表現             | ・積極的な演奏<br>・音楽の理解がみられる<br>・曲の特徴、様式の伝達 |
| Pass<br>合格<br>20-23点       | ・大体正確な音符<br>・調性を保つに十分な<br>音程  | ・ほど良いテンポ<br>・ほぼ安定した拍感<br>・リズムの正確さ   | ・安定感<br>・音色の意識         | ・音楽的な形付け/<br>細部への配慮が<br>見られる    | ・適度な安定性/<br>ミスからの速やかな回復<br>・音楽的表現への配慮 |
|                            | ・煩雑なミス<br>・調性に影響する音程<br>の不安定さ | ・不適切なテンポ<br>・不安定なテンポ/拍感<br>・不正確なリズム | ・不揃い/不安定な音色<br>・不適切な音色 | ・音楽的な形付け/<br>細部への配慮が<br>不十分     | ・ミスからの回復が困難<br>・音楽的配慮が不十分             |
| 13-16点                     | ・殆ど正確な音符/<br>音程               | ・テンポが維持されない<br>・拍子感の欠如              | ・音色コントロールの<br>配慮が不足    | ・音楽的な形付け/<br>細部への配慮が<br>殆どみられない | ・演奏の中断<br>・音楽的配慮の欠如                   |
| 10-12点                     | ・極めて不正確な音符/<br>音程             | ・テンポ/拍子感の欠如                         | ・音色コントロールの<br>欠如       | ・音楽的な形付け/<br>細部への配慮の欠如          | ・ミスが多く、フレー<br>ズを弾くのがやよと<br>の状態        |
| 0点                         | ・演奏が不可能                       | ・演奏が不可能                             | ・演奏が不可能                | ・演奏が不可能                         | ・演奏が不可能                               |

| イニシャルGrade-8 スケール・アルペジオ     |                                                                                                                                           | 初見演奏                                                                                                                              |                            | イニシャルGrade-8 オーラルテスト                                                                                    |  |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| Distinction<br>優<br>19-21点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>極めて正確な音符/音程</li> <li>流暢でリズムミカル</li> <li>音楽的な演奏</li> <li>自信をもって即弾き始める</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>流暢で正確なリズム</li> <li>正確な音符/音程/調の理解</li> <li>音楽的に理解している</li> <li>自信をもって弾いている</li> </ul>       | Distinction<br>優<br>17-18点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>全て正しく答えている</li> <li>音楽的に理解している</li> <li>自信を持って即答している</li> </ul>  |  |
| Merit<br>良<br>17-18点        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ正確な音符/音程</li> <li>ほぼ安定して流れている</li> <li>均一な音色</li> <li>直ちに弾き始める</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なテンポで、拍も安定している</li> <li>ほぼ正確なリズム</li> <li>ほぼ正確な音符/音程/調の理解</li> <li>ほぼ安定した演奏</li> </ul>   | Merit<br>良<br>15-16点       | <ul style="list-style-type: none"> <li>弱点はあるが、それに優る力がある</li> <li>音楽的な理解がみられる</li> <li>安定した反応</li> </ul> |  |
| Pass<br>合格<br>14-16点        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ミスはあるが、大体正確な音符/音程</li> <li>止まらずに弾いている</li> <li>ほぼ安定した音色</li> <li>慎重な弾きはじめ</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>流れは感じられる</li> <li>大体正確な音符</li> <li>ミスはあるが、アウトラインは把握できている</li> <li>慎重な演奏</li> </ul>         | Pass<br>合格<br>12-14点       | <ul style="list-style-type: none"> <li>弱点はあるが、それに優る力がある</li> <li>認められる</li> <li>反応が遅い</li> </ul>        |  |
| Below Pass<br>不合格<br>11-13点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>音符/音程にミスが多い</li> <li>流れが不安定/こなせていない課題がある</li> <li>不安定な音色</li> <li>弾き始めに時間がかかり、弾けない課題がある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>継続性に欠ける</li> <li>音符の長さが不正確</li> <li>音符/音程/調の理解が大まかである</li> <li>不安定な演奏</li> </ul>           | Below Pass<br>不合格<br>9-11点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>欠点が多い</li> <li>不確かな反応</li> </ul>                                 |  |
| 7-10点                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>不均等な音符/音程</li> <li>極端にムラがある</li> <li>音色コントロールの欠如</li> <li>弾き始めることが出来ない/部分的に弾けない</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>継続性なし、又は弾き通すのが困難</li> <li>音符の長さの認識に欠ける</li> <li>音楽のアウトラインが欠如</li> <li>極めて不安定な演奏</li> </ul> | 6-8点                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのテストにおいても正確さに欠ける</li> <li>非常に遅い反応</li> </ul>                    |  |
| 0点                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんど弾けない</li> </ul>                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんど弾けない</li> </ul>                                                                        | 0点                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんど答えられない</li> </ul>                                            |  |

## 5. 検定の後に

### 結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込みに送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

### アピールとフィードバック

#### アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

#### フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。フィードバックの期限など詳細は [www.abrsm.org/send-exam-feedback](http://www.abrsm.org/send-exam-feedback) をご覧ください。

## 6. その他の検定

ピアニストの為のABRSMの他の検定としては、プレップテスト、ジャズピアノ、パフォーマンスアセスメント、アンサンブル、及びディプロマがあります。詳細は [www.abrsm.org/exams](http://www.abrsm.org/exams)

### ピアノ プレップ テスト

リラックスした雰囲気の中での、受検者を元気づけるプレップテストは、グレード テストの前の力だめしの良い機会です。ここでは次へのゴールが見えるばかりでなく、なんと合格証書ももらえるのです。

プレップテストでは音楽の初心者の評価—主に音の高さ、拍感、音色、演奏力、音楽の認識力—が行われ、音楽力、技術力の基礎を積み上げていけるように工夫されています。

#### 内容

プレップテストには次の4つの分野があります。：練習曲、課題曲、自由曲、ききとりゲーム  
詳しくは58ページをお読み下さい。

#### 曲集

58ページに掲載されている全ての曲はABRSMから出版され、オンラインや代表事務局から購入できます。 [www.abrsm.org/shop](http://www.abrsm.org/shop)

#### 評価について

検定が終わるとすぐに、はげましのコメントが書かれた証書が検定員から手渡されます。ここでは点数や可否の判定はありません。検定員は以下の内容についてコメントします。

- ・音の高さ
- ・リズム
- ・音色のコントロール
- ・聴き取りの力

点数が書かれたコメントを希望する場合は、イニシャル グレードを受検することも可能です。

#### その他

- ・プレップテストは約10分です。(訳註：通訳が必要な場合はプラス3分)
- ・初めに椅子の高さを調節したり(検定員はお手伝いいたします)ためし弾きもできます。ピアノの種類などについては、英文12ページの「楽器について」をお読みください。
- ・「練習曲」には暗譜が必要ですが、その他の曲は楽譜をみて弾いてもかまいません。暗譜で弾く場合は必ず検定員用に楽譜を持参してください。
- ・自由曲にデュエット曲を選ぶ場合は、指導者など共演者を連れてくるのが可能ですが、検定員と一緒に弾くこともできます。
- ・通常1名の検定員によって検定が行われますが、まれに更に1名が同席する場合があります。
- ・日程や会場、検定料金などの詳しいことは [www.abrsm.org/exambooking](http://www.abrsm.org/exambooking) をご覧下さい。

| 内容                                | 出版名                                    |
|-----------------------------------|----------------------------------------|
| 練習曲：短い曲を3曲暗譜で演奏                   |                                        |
| a) Cracking Open a Nut            |                                        |
| b) Swinging Through the Trees     | Piano Prep Test                        |
| c) Dreaming                       | (ピアノプレップ テスト)                          |
| 1 曲目：ソロ 以下から1曲を選ぶ                 |                                        |
| Train Ride (Sara Watts)           | Piano Prep Test                        |
| Summer Fair (Nicholas Scott-Burt) | (ピアノプレップ テスト)                          |
| On a Bike (Christopher Norton)    |                                        |
| 又は                                |                                        |
| 右の曲集から1曲選ぶ                        | Piano Star 2                           |
|                                   | Party Time! for Piano (Michael Rose)   |
|                                   | Party Time! On Holiday (Allan Bullard) |
|                                   | Round About (Alan Haughton)            |
| 2 曲目：ソロ又はデュエット                    |                                        |
| 受検者の自由選択でソロ曲を1曲<br>(16～24小節位の長さ)  | 自由選択 (未出版のものも可)                        |
| 又は                                |                                        |
| 以下のデュエット曲のどちらか                    |                                        |
| My Brass Band (Allan Bullard)     | Piano Prep Test                        |
| Jelly Wobble (Nikki Iles)         |                                        |
| 又は                                |                                        |
| 右の曲集からのデュエット曲                     | Piano Star 2                           |
| ききとりゲーム：次の4種類                     |                                        |
| a) 拍うち                            |                                        |
| b) まねっこエコー                        | 問題例は Piano Prep Test に掲載あり             |
| c) 音あて                            |                                        |
| d) なにがきけたかな？                      |                                        |



## パフォーマンス グレード

ABRSMのパフォーマンス グレード（G1～8）は学習者の演奏力に特化し、それを披露する機会として設けられたもので、科目によってはイニシャルグレードも設定されています。受検者は、グレード、年齢に関係なく、どのグレードからでも受検可能です。詳しくは[www.abrsm.org/performancegrades](http://www.abrsm.org/performancegrades)（訳註：グレード6以上は事前取得資格の必要有り）

## パフォーマンス グレードについて

各パフォーマンスグレードでは、そのパフォーマンスに必要な基礎知識や理解がなされているかが総合的に評価されます。

これらの創造的なスキルは、楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、演奏プログラムの継続性、などの点が留意され評価されます。これらのスキルは受検者が次なるステップへと進み、ひいては他の創造的な分野での資格取得へと繋がっていくのです。

検定は次の5つの要素で成り立ちます。

- 4つの演奏曲／歌曲－課題曲リストから3曲と自由曲1曲
- パフォーマン全体の評価

これらの要素は等しく配点され個別に評価されます。

この検定は現時点ではオンラインのみにて受検可能です。受検者はワンテイクで演奏を録画し、ABRSMに送り評価を仰ぎます。

受検者／受検申込み者は、適切な会場設定と受検環境を用意する責任を負います。

グレード6以上のパフォーマンス グレードを受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ 或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。代替資格なども含め、詳細は[www.abrsm.org/prerequisite](http://www.abrsm.org/prerequisite) をご覧下さい。

## 音楽理論

音楽理論検定はグレード1から8まであり、受検者は年齢に関係なくどのレベルからでも受検できます。事前取得の制限もありません。詳しい説明は、[www.abrsm.org/theory](http://www.abrsm.org/theory) を、又資格取得については [www.abrsm.org/specifications](http://www.abrsm.org/specifications) をご覧ください。

### 音楽理論について

演奏家、作曲家、一般聴衆が幅広い音楽力を身につけるには、音楽語法を理解し、精通することが不可欠です。書かれている記号と音楽の要素との関係を理解し、それを翻訳し、実際の音としての様に表すかを学ぶことによって、その音楽の持つ意味をより深く経験できるのです。

ABRSMの音楽理論検定によって、学習者は：

- ・ 記号、用語など、西洋音楽の記譜法を理解し、
- ・ 音程、調性、スケール、和音など音楽の基本的な要素を理解し、
- ・ 理論の知識を理解し、楽譜の分析へと応用する事ができ
- ・ 更に抜粋の和声付けや、旋律創作にも役に立つのです。(G6－8)

受検者は、各グレードに準じて、音楽記号を自在に使い分けたり、音符の抜粋を完成させたり、音楽の要素に関する設問に答えることによって、能力を評価されます。詳しい音楽要素の説明は [www.abrsm.org/theory](http://www.abrsm.org/theory)

グレード1から5まではオンラインでの受検、6～8は紙ベースでの受検となっております。

### グレード5の事前取得

長年にわたるABRSMの水準のひとつとして、グレード6以上の実技検定/パフォーマンス グレードを受けるには、理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の理解が不可欠だと考えるからです。(ブラクティカル・ミュージシャンシップ、又はジャズのソロ演奏(訳注：日本では行われておりません)でのグレード5の取得もこの基準を満たすものとします。)

## プラクティカル ミュージシャンシップ

ABRSMのプラクティカル ミュージシャンシップはグレード1から8までであり、受検者は年齢に関係なくどのレベルからでも受検できます。事前取得の制限ありません。

詳しい説明は [www.abrsm.org/practicalmusicianship](http://www.abrsm.org/practicalmusicianship) を参照のこと。

### プラクティカル ミュージシャンシップについて

ミュージシャンシップという言葉は、音楽能力の分野を幅広く網羅する概念です。この要項の目的に沿って言えば、「音で考える」能力と言えるでしょう。この力は内なる想像力をもって音楽をする－聴いて、演奏したり、歌ったり、読譜をしたり、即興をしたり－場面で発揮されるのです。

ABRSMのプラクティカル・ミュージシャンシップは、受検者に「音で考えて」、自発的な演奏をする力をつける機会を与えます。ほかの実技検定が、前もって周到に準備された演奏力が中心となるのに比べ、ここでは、その場で聴いたり、読んだりしたものに対し、直ちに弾いたり、歌うことによって、反応することが求められています。

プラクティカル・ミュージシャンシップは、グレード毎に、バランスのとれた、以下のような音楽家の為の基本的な技能を包括します。

- ・音楽を内なる耳で聴き、再生する。
- ・最小限の準備で、楽譜を読み解く。
- ・短いモチーフを、内在する可能性に基づいて、展開する。
- ・書かれた音楽と、実際に演奏されたものとの、相違点を見つける。

これらの能力をつけることによって、学習者はレパートリー演奏に必要な音楽を理解し、解釈するなど、音楽の語彙力を身につけることができるのです。

### グレード5の事前取得

グレード6以上の実技検定/パフォーマンス グレードを受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ 或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の十分な理解が、不可欠だと確信しているからです。

## ARSM (演奏)

新しいディプロマであるARSMは、全ての器楽、声楽の学習者が年齢に関係なく受検できます。ここではG8とDipABRSMの橋渡しとして、演奏技術と、それに関連するテクニックを伸ばす機会が提供されています。受検者がレパートリーを広げ、リサイタルプログラムの構成を考える上にも有用です。

### ARSMの主な特徴

- 以下の要領で受検者は、バランスのとれた、多彩なプログラムを演奏します。
  - ・ 演奏時間：30分
  - ・ このうち少なくとも20分はARSM演奏レパートリーリストから選択
  - ・ 残りのプログラムは、グレード8と同じ或いはそれ以上のレベルの曲を受検者が自由選択。
- 楽曲演奏以外のテストはありません。
- グレード実技検定と同じ時期に行われます。
- 録画提出によるデジタル検定も可能です。
- ARSMは、資格のひとつとして証明書、プロフィール等にかき加えることが可能です。

このARSMを受検するには、G8（又は代用資格）の事前取得が必要です。詳しくは [www.abrsm.org/arsmdiploma](http://www.abrsm.org/arsmdiploma) を参照のこと。

ABRSMのシラバスは、随時更新されています。変更点は事前にウェブサイトでお知らせいたしますので最新版のサイトをご確認ください。 [www.abrsm.org/exams](http://www.abrsm.org/exams)

## DipABRSM / LRSM / FRSM (演奏)

これらのディプロマは、年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。その場での検定と、あらかじめ用意された論文／エッセイなどにより、音楽的な知識や理解に基づいた、受検者の演奏技術、コミュニケーション能力、研究能力などが示されます。全てのディプロマは次のレベル受検への必須条件となります。

### 主な特徴

#### ●受検者

- ・リサイタルプログラムに基づく演奏
- ・あらかじめ、プログラム ノート (DipABRSMおよびLRSM) 又は提出論文 (FRSM) を作成
- ・リサイタルや、プログラムノート／提出論文の内容を中心としたヴィヴァ・ヴォーチェ (口頭試問) が行われます。

#### ●短い無伴奏の初見曲：5分間の試弾ができます。(クイック スタディ)

#### ●これらのディプロマは所定の期間と会場で行われます。(訳註：日本ではグレード実技検定と同じ時期に行われます。)

#### ●これらを、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等の名前の後に書き加えることが可能です。

これらのディプロマを受検するには、各々のレベルでの事前取得が必要です。詳しくは [www.abrsm.org/diploma](http://www.abrsm.org/diploma) を参照のこと

### その他のディプロマ検定

これらのディプロマ検定は、楽器／声楽の指導、指揮法の領域でも行われます。詳しくは [www.abrsm.org/diploma](http://www.abrsm.org/diploma) を参照。

現在ディプロマ検定内容の変更、改訂作業が行われております。現時点で、ここに記載されている内容の最新情報は、[www.abrsm.org/diploma](http://www.abrsm.org/diploma) をご覧下さい。



曲目リスト (演奏順)

## Exam programme & running order

氏名 Name TARO KAKENASHI  
 科目 Subject Piano Grade 5

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

### Year of syllabus

| List * | Number | Composer | 作曲者 | Title              | 曲名 |
|--------|--------|----------|-----|--------------------|----|
| A      | 3      | Handel   |     | Toccata in G minor |    |
| C      | 2      | Hammond  |     | Changing Times     |    |
| B      | 1      | Beach    |     | Arctic Night       |    |

声楽のみ

Singers only: unaccompanied traditional song: (無伴奏曲)

打楽器のみ

Percussion (Combined) only: technical requirements on: (スケールアルペジオの楽器)

\* Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion

※スネアドラム、ティンパニー、音程のある打楽器は記入不要

09/19



この冊子は2023－2024年度のABRSMピアノ要項で、  
イニシャルグレードからグレード8までの検定詳細が書かれています。

新しい内容としては

- 課題曲の選択幅の拡張（リスト曲の増加）
- レパートリーリストの再編成

その他の分野に変更はありません。

**英国王立音楽検定 (ABRSM) 日本代表事務局**

**公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団**

[公式サイト] [www.kakehashi-foundation.jp/](http://www.kakehashi-foundation.jp/)

**英国王立音楽検定本部**

[公式サイト] [www.abrsm.org](http://www.abrsm.org)